

「平城第二」盛り上げ54年 団地夏祭り 最後の思い出を
令和8年（2026）6月23日（火）発行

7月25、26日フィナーレ 有志団体寄付募る

高度経済成長期に整備された、近鉄高の原駅近くの「平城第二団地」（奈良市）で、毎夏開かれてきた夏祭りが今年、54年の歴史に幕を下ろす。住民らの思い出が詰まった祭りのフィナーレを盛り上げようと、有志団体がクラウドファンディング（CF）で寄付を募っている。関係者は「一緒に祭りに参加するような思いで協力してほしい」と呼び掛ける。

■■住民高齢化

団地は奈良、京都にまたがる「平城・相楽ニュータウン」の一角で、1972年に入居が始まった。翌年から夏祭りはスタート。盆踊りや子どもみこし、住民らの出店でにぎわった。就職や結婚などで団地を巣立った住民も「7月末の土日は夏祭りで集う」が慣習となっていた。しかし、半世紀で住民は高齢化し、自治会の加入者が減少。今年、祭りの終了が決まった。

残念がる声が相次ぐ中、地元で情報誌やイベントを手掛けるボランティア団体「gratia（グラティア）」らが「祭りに感謝し、街をもっと好きになってほしい」と考え、遠方にいるゆかりの人たちにも協力してもらえよう、CFを始めた

■■子どもみこし復活

最終回は、7月25、26両日午後5～9時に開く。近年は実施できていなかった子どもみこしが一日限りで復活し、地上からの噴射花火も行われる。名物の盆踊りは、宇陀市拠点の盆踊り歌の生演奏グループ「奈良躍遊会」が、河内音頭や炭坑節など約10曲を披露する。恒例の横断幕も設置。「子どもたちに ふるさとを」「あなたにあえたこの街が好きです」のローランを大切にしながら臨む。

団地住民で、近くの平城第2ショッピングセンターの洋食居酒屋店主も出店する。「母のフランクフルトの出店を手伝いに行ったことを思い出す。大きな文化がなくなるようでさみしい。最後とは言いたくない」と別れを惜しむ。

CFでは、会場設備や装飾、広告などの費用50万円を目標にしているは「昔を思い出しながら、子どもや孫たちとこの空間を楽しんでほしい」と願う。



1975年の夏祭りの様子＝平城第二自治会（県立図書情報館今昔写真WEB蔵）提供



1981年の夏祭りの様子＝平城第二自治会（県立図書情報館今昔写真WEB蔵）提供